

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：32412

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320025

研究課題名(和文)ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治的思想の研究

研究課題名(英文)Reinhold Niebuhr's Religious, Social, and Political Thought

研究代表者

高橋 義文(TAKAHASHI, YOSHIBUMI)

聖学院大学・アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所・教授

研究者番号：70248839

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,100,000円、(間接経費) 1,830,000円

研究成果の概要(和文)： 主要な成果は以下の4点である。第一は、ラインホルド・ニーバーに関する公開研究会の開催である。3年にわたり都合12回開催し、そのほとんどを『聖学院大学総合研究所紀要』および「中間報告書」に論文として収録・公開した。第二はニーバー関係文献の収集とデジタル化である。ニーバーの雑誌論文2700余編の70%ほどを、収集・デジタル化し、研究者に公開した。第三は、国際シンポジウムの開催である。米国及び韓国から研究者を招き、講演と密度の高い意見の交流・議論を行った。第四は、本邦未訳のニーバーの名著『人間の運命』の翻訳と研究である。ニーバーについて、わが国でこれまでにない集中的な研究を遂行することができた。

研究成果の概要(英文)： The research project achieved the following four main results. First, research meetings pertaining to Reinhold Niebuhr open to the public were held. Over the three years of the project, twelve such meetings were held, most of which were recorded and published as essays in the Seigakuin University Research Institute Bulletin or the Midterm Report. The second result was the digitalizing of relevant materials. About seventy percent of Niebuhr's 2700 articles and essays published in periodicals were recorded digitally and made available to researchers. The third result was the holding of an international symposium. Scholars from the United States and Korea were invited to present lectures and to participate in high-level discussions. The fourth result was the translation and research work that produced for the first time a Japanese translation of Niebuhr's major work, Human Destiny. This project resulted in intensive research being conducted on Niebuhr to a degree hitherto unknown in Japan.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：ニーバー 社会倫理 現実主義 歴史主義 政治思想 アメリカ ニーバーと日本

1. 研究開始当初の背景

(1) わが国で、ラインホルド・ニーバーの名は、戦前から知られていたが、その影響はごく限られていた。戦後間もない頃、ニーバーは、とくに、丸山眞男、都留重人、鶴見俊輔、鶴見和子、武田清子らによって取り上げられ、その後の1940年代から50年代および60年代初めにかけて、武田、飯野紀元、山本新らによる、ニーバーの生涯と思想の概要を紹介する著書が相次いで出された。しかしその紹介は十分なものではなかった。その後、1960年代から80年代にかけての20年ほどの間、わが国では、ニーバーへの関心はほとんど見られず、ニーバー研究の空白期間のような状態を呈した。

(2) この状況が改善されるのは1980年代に入ってからである。鈴木有郷、千葉眞、平田忠輔、高橋義文、西谷幸介、安酸敏眞らのニーバー研究書が矢継ぎ早に出されるようになったからである。また、古屋安雄、大木英夫、近藤勝彦、東方敬信らもニーバーを相当程度取り上げ、検討・議論の対象にした。さらに70年代からこの間にかけて、ニーバーの翻訳・改訳も多少だが進んだ。

(3) ところが、1980年代以降のニーバー研究の進捗は今世紀に入って頭打ちの状況となった。米国では、近年「ニーバー・リバイバル」とも呼ばれるほどにニーバー研究が活況を呈しているのに、である。この落差はわが国のニーバー研究にとって危機的といわざるを得ない。そこで、本研究は、その危機感のもと、80年代以降の主要なニーバー研究者を糾合し、同時に若手研究者の育成も視野に入れて共同研究を行い、わが国におけるニーバー研究のそのような状況を改善さらには進展・深化することをも目指すことにした。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、ラインホルド・ニーバーの思想の特質を共同研究によって明

らかにし、わが国において、名前の有名さにもかかわらずその思想が十分に明らかになっているとは言えない、「遅れている分野」とでもいうべきニーバー研究を大きく一歩前進させることである。

(2) その際、ニーバーが宗教(神学)、政治、哲学、社会の諸領域にまたがる多面的な思想家であるゆえに、共同研究者のそれぞれの関心からの研究と海外から2名の研究者を招く国際シンポジウムをとおして、海外とりわけ米国におけるニーバー研究の成果と交流しつつ、ニーバーの多様な側面を明らかにするとともに、その多様性に通底するニーバーの独特の思想の本質を浮き彫りにすることを目指す。

3. 研究の方法

研究は、各研究分担者のそれぞれの課題についての研究、ニーバー関係資料の収集、公開研究会の開催、国際シンポジウムの開催、ニーバーの未訳の主著の翻訳研究等によって行う。またその主要なものを雑誌論文として公開する。研究方法の詳細は以下のとおりである。

(1) 平成23年度

各研究分担者の研究は基本的に各人の責任で、専門のテーマを主に研究をする。

公開研究会を2回開催する。

ニーバーの著書、ニーバーに関する研究書、ニーバーに関わるアメリカにおける政治学・歴史・思想関係文献を収集し、共同研究者の研究に供する。

入手しにくいニーバーが書いた雑誌論文(約2700編)の収集とデジタル化。(次年度に継続)

(2) 平成24年度

研究分担者個人による研究。

公開研究会を6回開催。

ニーバーの雑誌論文(約2500編)を

可能な限り収集・デジタル化。

(3) 平成 25 年度

研究分担者個人による研究。

公開研究会を 4 回開催の予定。

公開国際シンポジウムの開催。アメリカから 1 名、韓国から 1 名、国内から 2 名を発表者に予定。それに加えて、研究分担者全員が応答者等で参加。

国際シンポジウムに合わせて、海外からの研究者の学術講演の開催。

国際シンポジウムの要旨の公刊。

合評会とまとめ:共同研究者による 24 年度、25 年度の研究成果について集中的に評価・討議を行う。

4. 研究成果

国際シンポジウムの開催日程を 24 年度から 25 年度に変更した以外は、ほぼ当初の計画通り遂行することができた。成果は以下のとおりである。

(1) 公開研究会の開催: 23 年度に 2 回、24 年度に 6 回、25 年度に 4 回、合計 12 回開催した。そのほとんどを『聖学院大学総合研究所紀要』および研究中間報告書『ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究』に論文として収録・公開した。

(2) ニーバー関係文献の収集とデジタル化: 現在最も包括的なニーバーの著作目録 D. B. Robertson, *Reinhold Niebuhr's Works* (1984) に収録されているニーバーの雑誌論文 2700 余編の訳 70%ほどを、収集・デジタル化することができ、フェアユースの原則で研究者に公開できるようにした。おそらくこの作業は、世界でもまれなことではないかと思われる。今後のニーバー研究に有益なものとなるはずである。

(3) 国際シンポジウムの開催: 25 年 6 月に、青山学院大学を会場として、米国からロビン・ラヴィン(Robin W. Lovin) 教授、韓国からイム・ソンビン(Yim Sunbihn) 教授を

招き、両氏の講演に、日本側から 4 名の研究分担者がレスポンスを行い、出席者を含めた密度の高い意見交換と議論を行った。合わせて、付随的企画として、ラヴィン教授がニーバーを主題にして、3 大学(国際基督教大学、東京神学大学、聖学院大学)で講演を行った。シンポジウムならびにラヴィン教授の講演の報告は、『聖学院大学総合研究所紀要』別冊「ラインホルド・ニーバーとキリスト教現実主義」として公開した。なお、英文報告書 A Report on the International Symposium: Reinhold Niebuhr: His Religious, Social, and Political Thought も 26 年度に公刊予定である。

(4) ニーバーの主著『人間の運命』の翻訳研究: これは当初の計画に入っていなかったが、24 年度から研究活動に加え、研究分担者 4 名が担当した。その翻訳と研究は、上記研究会で発表され、後に『聖学院大学総合研究所紀要』に章ごとに順次掲載され、多方面からのコメントを集める作業も行った(26 年度末で、全 10 章のうち、7 章まで研究会にて発表、5 章まで『聖学院大学総合研究所紀要』掲載済み)。

以上、ラインホルド・ニーバーについて、わが国では、これほどまでに集中した研究がなされたことはなかった。わけても、ニーバーについての国際シンポジウムの開催は本邦初であり、特に、アメリカにおける最先端のニーバー研究と学術的対話をすることができたことは、日本におけるニーバー研究にとって貴重な経験であった。本研究によって、わが国におけるニーバー研究を一步前に進めることができたと思われる。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 19 件)

ラヴィン、ロビン・W、審判・自由・責任

21 世紀のためのキリスト教現実主義

、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、

57 号別冊、2013、p.p17-33

イム・ソンピン、グローバリゼーションの時代における平和に対する韓国教会の課題 ニーバー的現実主義を超えるエキュメニカルな社会倫理、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、57号別冊、2013、p.p43-64

ラヴィン、ロビン・W、ラインホルド・ニーバーとキリスト教現実主義、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、57号別冊、2013、p.p99-114

ラヴィン、ロビン・W、アメリカにおける教会と国家 憲法、文化、そして神学、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、57号別冊、2013、p.p83-98

ラヴィン、ロビン・W、キリスト教現実主義と新しい現実、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、57号別冊、2013、p.p115-132

澤井 治郎、新聞記事からみる「神学者」ラインホルド・ニーバー、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、57号、2013

松本 周（訳）「人間の運命」第4章「知恵と恵みと力（歴史の成就）」、聖学院大学総合研究所紀要、査読無、57号、2013

高橋 義文（訳）ラインホルド・ニーバー「歴史の可能性と限界」『人間の本性と歴史』第二部『人間の本性』第三章、聖学院大学総合研究所紀要、査読無、55号、2012、p.p159-192

高橋 義文、モルトマンのニーバー批判をめぐって、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、55号、2012、p.p120-151

高橋 義文、ラインホルド・ニーバーと社会福音運動、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、55号、2012、p.p15-69

田中 豊治、R・ニーバー政治倫理学とM・ヴェーバー歴史社会学 民主制論をめぐって、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、54号、2012、p.p13-55

鈴木 幸（訳）ラインホルド・ニーバー「生と歴史の意味の開示と成就」『人間の本性と歴史』第二部『人間の本性』第二章、聖学院大学総合研究所紀要、査読無、54号、2012、p.p159-196

松本 周、<ニーバーの祈り>とスピリチュアリティ その日本における受容形態の考察、聖学院大学総合研究所紀要、査読無、53号、2011、p.p92-109

柳田 洋夫（訳）ラインホルド・ニーバー『人間の本性と歴史』第二部『人間の本性』第一章、聖学院大学総合研究所紀要、査読無、53号、2011、p.p53-91

千葉 眞、ニーバーの愛と正義の弁証法的理解および世界共同体論、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、52号、2011、p.p79-109

古屋 安雄、ニーバーの「キリスト教現実主義」をめぐって、聖学院大学総合研究所紀要、査読有、51号、2011、p.p49-60

高橋 義文、ラインホルド・ニーバーの著作の翻訳について、聖学院大学総合研究所NEWSLETTER、査読無、第21巻、No.4、2011、p.p2-10

西谷 幸介、ニーバーを今、どう見るか 現代アメリカの「ニーバー・リヴァイバル」に触れて、福音と世界、査読無、2011、p.p38-43

東方 敬信、いまラインホルド・ニーバーをどう見るか、福音と世界、査読無、2011、p.p24-29

〔学会発表〕(計14件)

安酸 敏眞、ニーバーのルネサンス理解の思想史的考察、2013年度第4回ラインホルド・ニーバー研究会、2014.2.28、聖学院新館

柳田 洋夫、ニーバーの「恵み」の議論『人間の運命』第3章「知恵・恵み・力」および第5章「恵みと傲慢」をめぐって、

2013 年度第 3 回ラインホールド・ニーバー研究会、2014. 1. 27、聖学院新館
澤井 治郎、新聞記事からみる「神学者」
ラインホールド・ニーバー、2013 年度第
2 回ラインホールド・ニーバー研究会、
2013.12.9、聖学院新館
高橋 義文、ニーバーの宗教改革論 ニー
バー『人間の運命』第 7 章「近代文化に
おける人間の運命をめぐる論争 宗教
改革」に学ぶ、2013 年度第 1 回ライン
ホールド・ニーバー研究会、2013.11.11、
聖学院新館
ラヴィン、ロビン・W、審判・自由・責任
21 世紀のためのキリスト教現実主義
、ラインホールド・ニーバー国際シン
ポジウム「ラインホールド・ニーバーの
宗教・社会・政治思想の研究」、2013.6.14、
青山学院大学 総研ビル（14 号館）
イム・ソンピン、グローバル化の
時代における平和に対する韓国教会の
課題 ニーバー的現実主義を超えるエ
キュメニカルな社会倫理 、ラインホ
ールド・ニーバー国際シンポジウム「ライ
ンホールド・ニーバーの宗教・社会・政
治思想の研究」、2013.6.14、
青山学院大学 総研ビル（14 号館）
安酸 敏眞、ニーバー再考 その歴史理解
を中心に、2012 年度第 6 回ラインホ
ールド・ニーバー研究会、2013.2.18、
聖学院本部新館
佐久間 重、ラインホールド・ニーバーの
思想の今日性、2012 年度第 5 回ライン
ホールド・ニーバー研究会、2013. 2. 8、
聖学院本部新館
田中 豊治、R.ニーバー政治倫理学とM.
ウェーバー歴史社会学 民主制論をめ
ぐって、2012 年度第 4 回ラインホ
ールド・ニーバー研究会、2012.12.10、
聖学院本部新館
高橋 義文、歴史の意味の開示と成就、歴

史の可能性と限界 ニーバー『人間の運
命』第 2 章および第 3 章の議論を追う、
2012 年度第 3 回ラインホールド・ニーバ
ー研究会、2012.10.15、聖学院本部新館
柳田 洋夫、ニーバー『人間の運命』の翻
訳（第 1 章）について、2012 年度第 2 回
ラインホールド・ニーバー研究会、
2012.7.9、聖学院本部新館
高橋 義文、ニーバーと社会福音運動、
2012 年度第 1 回ラインホールド・ニーバ
ー研究会、2012.6.11、聖学院本部新館
高橋 義文、ニーバー「秘義と意味」
(Mystery and Meaning)をめぐって、2011
年度第 2 回ラインホールド・ニーバー研
究会、2011.10.3、聖学院本部新館
千葉 眞、ニーバーの愛と正義の弁証的理
解・終末論・世界共同体論、2011 年度第
1 回ラインホールド・ニーバー研究会、
2011.6.6、聖学院本部新館

〔図書〕(計 1 件)

高橋 義文、ニーバーとリベラリズム ラ
インホールド・ニーバーの神学的視点の
探求、聖学院大学出版会、2014.3.31, 431
6 . 研究組織
研究代表者
高橋 義文 (TAKAHASHI, Yoshibumi)
聖学院大学・アメリカ・ヨーロッパ文化学研
究科・教授
研究者番号: : 70248839

研究分担者

西谷 幸介 (NISHITANI, Kosuke)
青山学院大学・国際マネジメント研究科・教
授
研究者番号: : 00218158

藤原 淳賀 (FUJIWARA, Atsuyoshi)
聖学院大学・基礎総合教育部・教授
研究者番号: : 00327222

豊川 慎 (TOYOKAWA, Shin)
聖学院大学・基礎総合教育部・研究員
研究者番号：10406738

鈴木 幸 (SUZUKI, Miyuki)
聖学院大学・総合研究所・研究員
研究者番号：20613722

安酸 敏眞 (YASUKATA, Toshimasa)
北海学園大学・人文学部・教授
研究者番号：40183115

松本 周 (MATSUMOTO, Shu)
聖学院大学・基礎総合教育部・助教
研究者番号：40548559

齊藤 伸 (SAITO, Shin)
聖学院大学・基礎総合教育部・研究員
研究者番号：70611771

柳田 洋夫 (YANAGIDA, Hiroo)
聖学院大学・人文学部・准教授
研究者番号：80468389

(23年度のみ)

柴田 史子 (SHIBATA, Fumiko)
聖学院大学・人文学部・教授
研究者番号：50206140

(23年度のみ)

東方 敬信 (TOBO, Yoshinobu)
青山学院大学・総合文化政策学部・教授
研究者番号：00172130

連携研究者

千葉 眞 (CHIBA, Shin)
国際基督教大学・教養学部・教授
研究者番号：10171943